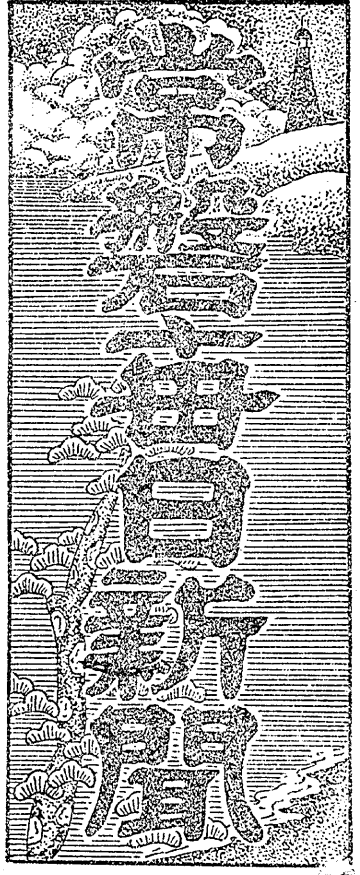


【刊夕】日十二月五



郵五發郵錢十五月一 錢貳金部一 價元
錢十五行一語字三十號五 料書廣
治文崎川人朝印人輯編筆行發
五三町橋長町平郡城石縣島福
番〇三六話電 社開新日每警常 所行發
社會式株刷印日每警常 所印

五十九議會を顧みて (七)

代議士 木村清治

國と地方と分擔して行ふ河川改修費の如き、國の負擔額を却つて繰上げるといふことさへしてゐる。物價の下落に伴ふ工事費も、國費に屬するものは充分減額してゐるにかゝらず、地方費に屬するものは申請的の減をしてゐるにすぎない。かやうな中央財政の地方財政に對する壓迫に加ふるに不況の深刻は地方にゆくほど甚しいのである。これがため昭和四年度において歳入缺陷のため赤字を出したものは十九縣の多きにおよんでゐる。おそらく昭和五年度についても同じやうな結果を見るであらう。市町村財政の苦しみに至つてはさらに驚くべきものがある。昨年の特別議會において義務教育費の國庫負擔金を一千圓増し、これを市町村における地方税の負擔輕減に充つることとしたのであるが事實は殆んど行はれてゐない、たとひ一時減税を行つたとしてもすぐその翌月には追加課税をするといつ

た状態である。教員の俸給さへ支給の出来ないものが少なくないといふ事實はこの間の消息を傳へて餘りある。歳入缺陷を補填するために地方財源を融通したのもあるが、いまはその餘力も乏しくなつてゐる。地方債も後章に述べるやうに政府の聲明を裏切つて年々その實數において増加してゐる。これを要するに上述せる現内閣の財界建て直しは、その方策がいつれも見當はずれであり、却つて財界と産業とに破壊を來さしめ國民多數を塗炭の苦しみ陥れしめたものといはねばならぬ。重金主義の迷夢醒めやらぬ現内閣は眼に少數の金融資本家あるのみで、銀行の狭い窓口から世間を覗いてゐると譬へられる所以もここに存するのである。

六、救はれない農村と失業者
深まりゆく不況は第五十八議會當時の状況とくらぶべくもないほどである。金解禁以來不動産なり株式なり商品なりの價格の下落したことは二三割と見られ、その額四十億圓見當の損失と算せられたものが、いまは最高五割の下落を見てゐるものも少なくなく、その損失も三百億圓を超過するに至つたからである。銀行、保險、信託、無盡、信用組合などの貸金約二百億圓もその運轉の不圓滑なことは意外であつて、決濟難に苦しんでゐるものが多い事實を見ては驚かぬ。けれども眼も當てられないのは何といつても農村の昨今である。その悲惨極まる状態については後章農漁山村問題において詳述してゐるとほりである。米價は二分の一に、繭價は三分の一に、蔬菜や木材などの價格は五分の一に下つたといふやうに農産物は十二億五千餘萬圓にのぼる損失を齎らさしめたのである。加ふるに高利で攻め立てられる負債は五十億圓に達してゐる。租税公課は些しも軽減せられず、金解禁の結果は負債とともに加重せられたのと同じ状態にある。物々交換はおろか私的モトリアムは隨所にこれを産兒制限の調節組合を設けたところさへある

五月十九日より五日間
銘仙と本セーブル大廉賣
驚く程安い三井の超特價
純毛本セーブル

- ◎男物縞縞セーブル …… 金四圓均一
 - ◎模様セーブル …… 金六圓均一
 - ◎夏模様銘仙 …… 金二圓九十錢
- 外に格安品豊富!

三井吳服店
平町 電話 二三八番
二八四番

酒場

今般家事都合上居拔のまゝ、格安に譲り度し
御希望の方は中町 佐藤ブドー酒店へ御來談を乞ふ

貸切

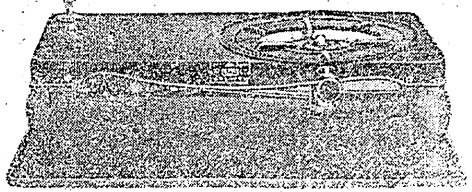
初夏
緑丘に乙女藤、砂丘に濱躑躅
お散策にお商用に是非……
驛前イワキタクシー
電話 五六九番

外科

門專光X
科線
上田外科醫院
平町南町
電話二一九番

瓦斯や電熱より經濟で便利な變性アルコールを燃料とする尖端的の特許
自家瓦斯發生器生る

- ▽本器の使命
- ▽國家的燃料の革命
- ▽家庭經濟の合理化
- ▽特價金八圓五拾錢



(しな差大と油石段値ルーコルア)

◆本器の特長
一、便利重寶IIガス、電氣のやうに管やコードを要せず、土器鐵器の様に重ならず、石油厨爐の様に容積大ならず、持運び自由で體裁良し
二、經濟的II「アルコール」を一日「ガス」化して燃える爲め燃焼物の容積を膨大し火力熱量は類なく強大でありますから燃料が少料で安價に煮炊き出來ます時間は瓦斯より早い。
◎飯一升五合炊くに要する各種燃料比較實驗表 (昭和六年四月釜屋商店調)

四季の平均(アルミニウム製並二升釜使用)
米一升五合に對する水の分量一升六合
用途
一般家庭臺所向は勿論左記に利用下されば最も便利と思ひます。旅館、料理業、うどん屋、ば屋、問借別荘、病院、船舶(海上生活者)野
外一般用工業用
今回御便宜の爲にねん料アルコールのハカリ賣を初めました
精々御利用を願ひます
◎一升以上 一升ニ付 四十錢

吉田眼科病院
平町星町、電話六八八番

釜屋商店
平町五丁目 電話九番九九番

未だ處分出来ぬ

元平署跡の敷地

平町元平署跡三百七十坪の處分は屢報の如く縣會の問題となつて右

土地を賣却して白河警察署を改築する案は通過したが幾度か賣拂ひ處分問題につき地元平町は勿論附近の町民は交通事故の上から支障を來し處分を促してゐるが今以てその解決を見るに

困難で

當局でも不況の折柄何とも手の下し様なく結局起債して町で買ふことになつたが縣ではこれを承認せず、ない袖は拂われなと依然として三角形の空地は小供の遊び

場所となつてをり最

近町會議員一部にはこれが解決方を高調してゐるので近く町當局に再度の解決促進方を陳情することになつた

内郷教育研究

石城郡内郷村第一、第二、第三高坂各小學校の代表教員は十九日午前九時から第一小學校に教育研究會を開催し教育方針に關する意見を交換正午散會したと

商品を

再び發送

去る十四日以来須賀川町に於いて開催された縣下名産品展覽會に磐城地方よりの

出品で即賣品切れとなり再び商品の輸送した物は小名濱水産試験場出品のイワシの罐詰と平製菓會社の磯の花等であるが是等豫想外の名聲の爲め展覽會の期日は廿五日迄延期された

お手際鮮か!

素人が馬の人工受精に見事成功

石城郡上遠野村字龍蛭田安兵衛氏は昨年六月石城郡産馬組合の上川技師の教へを

滞納整理が好成绩

平町が力を得て意氣込

五年度の出納閉鎖期も餘すところ十二日で町では町税収入町支出に各係員は大馬力をかけ滞納税の處分整理をなしてゐるが三月末日までに

▲町税總額十六萬七千四百四十八圓に對し四萬四千三百二十六圓二割七分

の未収入所謂滞納があつたが十九日稅務係で調査したところによれば ▲町税未収入總額は二萬七千二百餘圓

にまで整理したこの分で行せば閉鎖日までは一萬圓をこゝになると意氣込んでをり昨年よりはずつと少くなる譯で當局では二十五日頃再度の滞納處分を斷行する意向である

受けて同氏所有農耕牛馬二頭に對し人工受精を試みたところ完全に受胎してこの程二頭とも安産したが石城郡として素人が人工受精に成功したのはこれが嚆矢である

紹介會議出席

平町職業紹介所長伏見彦衛、同書記四家桑治の兩氏は十八十九の兩日仙臺市に開催の北海道及奥羽六縣聯合の職業紹介所長會議に出席同紹介所からは左記提出された

一、浮浪労働者の求職者に對する取扱に關する件
二、性能試験の利用程度に關する件

滿鮮土産談(元)

川崎小鳥

◆二〇三高地の登り口に一軒の寫眞屋さんがある、此の寫眞屋さんは、旅順の戦ひに臨み、激戦地二〇三高地に於て、數多くの戦友を失つた。其處で自分は、幸ひに餘命を獻けて此の地に止どまり、護國の鬼と化した亡き友の、菩提を弔はんと發願し、此處に寫眞館を出したのである。

◆二〇三高地に登る人の求めに應じて、此の寫眞屋さんは、暗箱を擔いで、案内役を勤め、時の激戦の模様などを、事細かに説明

かわかぬ

少女の涙

時計が生んだ悲劇 歸らぬ愛人

十八日の事平署でうら若い女が取調べられてゐた、何か深い事情がありさうな風

この女は 旅館の愛娘 平町奥野綾子(七)(假名)といふ昨年十二月末同町を

する、僕が行つた時には、折悪しく此人が不在の爲め會ふ事が出来なかつたが、以下に述ぶる處は、案内役の滿鐵社員が、此の寫眞屋さんから聞いた話を、僕に取次いでくれたのである

◆ツイ先日の事、或る老夫婦が旅順の戦跡めぐりに遼々内地から出掛けて來たといふのは、此の老夫婦に

丁目酒井政(五)と思思の仲となり本年三月始め兩人は東京に墮落して吉祥寺驛附近に一戸を構へたがたれにも容赦のない生活の脅威が訪れ政が金策に

單身平へ 舞戻つて來た

一人息子があつた、處がその息子は二〇三高地で行衛不明となつて仕舞つた、多分戦死したのであらうと、寫眞を棺に入れて、野邊の送りをして濟した。

◆天にも地にも代へ難き一人息子を失つた夫婦の嘆き……自分等はもう此の世に望みがない、セメテは老後の思ひ出に、息子の死ん

今日の話

祖先崇拜貯金——これは多分谷孫六氏の發案であつたらう。せん祖代々の位牌の下に穴をあけて貯金箱にする、毎朝拜む毎に一錢二錢づつその穴に入れる。この思ひつき、祖せんも片腹いたいであらうがバチも當るまい。谷孫六ついでに、これは貯金ではないがやはり同氏の發案に「知らぬが佛法」といふ儉約法がある。こゝに毎日五合づつの飯をたく家庭があるとすると、その中から毎日一掴みづつ失敬して蓄へてをく、かうしたからとて別にその日の飯に支障する譯ではない、しかも一掴みはねてをいただけで一月もたつと二度や三度分の飯が出来るといふ具合である。毎日の飯を一掴みはねられてゐるとは彼氏も坊やもさらさら知らない。知つてゐるのは神さまばかりだ、とこゝでこれを誰か貯金に應用しないかといふのである。

たのが四月二十二日、しかし金策の法はつかず思ひ余つて搔搔小路の高橋時計店のショールウィンドを破壊して二百圓の時計を盗んで逃走した、そして赤井村の兄を訪れ時計を置いて金を借り東京に舞戻つたのであるところが數日前の事その兄が件の時計を持つて平町

某時計店を訪れ「いくらに賣れるでせう」と問うた所が時計店では不審と思ひ届け出たので署では

だ二〇三高地に至り、その苦戦の跡を偲ばんと、何年かがかりで其の旅費を貯へ愈よ内地を出發しやうといふ前夜、不思議な夢を見た

◆夫れは息子が夢の中で父母の來るを非常に喜び、「私の戦死した場所は、斯ういふ所です」と、一つの風景を、彷彿と見せてくれた

◆處が、愈よ二〇三高地に來て見ると、不思議な事には、前夜の夢とソツクリな場所に出來た、サテは正夢であつたか、吃度悴は此處で戦死したに違ひない夫れにしても何か、悴の形見はないかと、案内の寫眞

早速政の捜査を開始したところへ綾子が歸つて來たので召喚して政はと訊くと女はさめくと泣き伏したといふのは政は四月の廿五日罪の發覺をおそれ良心に責められて綾子に一言も語らず昇こう水を飲んで自殺を遂げたとの事であるこれで高橋時計店のウィンドウ事件も解決した譯だが綾子にとつては痛ましい解決であらう

◆これは必ず息子を持ち物であらう、是非にも關東應に懇請して、赤サビの軍刀を下附され、何よりの悴の形見と、喜んで歸國した由である。

◆「その軍刀の出た場所は、此所なさうです」と案内された場所は、兩親が掘り起したらしい、生々した土が、未だ盛れ上つて居り、附近には幾筋かの塹濠があつて、程遠からぬ處に「乃木保典君戦死の處」と刻した石碑が建つて居た

ヨウ！モーダン！
い、服を求めたね
斷然三一年型だよ
さやコレカネ
例の……「ソレ」

正札堂



六三四電通場車停目丁四町平

農繁期に此の 惨めな安賃銀

好況當時の約四分の一
それでも雇口がない

弗々農繁期に入ったので各地共勞銀の協定を行つてゐるが石城郡農會の調査によれば大体男五十錢、女三十錢といふ惨めな相場となつてゐる、然し養蠶と言ひ田植と言ひ不況續きから一般に乘氣となつてをらず幾分期間は前後しても自分の手で間に合はせるといふ有様であるから右の如き法外な安賃銀でさへ雇主はないものと觀られてゐる、これを好況當時の二圓といふ賃銀と比較すれば約四分の一に過ぎず日雇業者は悲觀しきつてゐる

鐵骨火見披露 既報石城郡内郷村高坂第五部で同村仲平地内に建設される鐵骨火見櫓は十九日竣工した尙新設のガスリン唧筒は廿一日に到着の見込みで是れ等の披露式は本月下旬盛大に行ふと

飛行船

初の訪れに 植田町の喜び

十九日午前十時半ころ霞ヶ浦航空隊所屬の飛行船一臺が石城郡植田町上空を通過して小名濱町に至り沖合で一旋回して水戸方面に向つて姿を没したが同方面に飛行船のおとづれたのは初めてである

貯炭調節に 従業員慰安

入山三日休業

石城郡湯本町入山炭礦で出送炭は二割制限漸行によつて山元貯炭が最近激増した

三十萬トンの能力しかないのに新たに機械を備へ付るよりは失業救済の意味で十八日炭礦ルンペンを四十餘名採用した

天然痘警戒

鯉魚に出た

千葉縣成東町に發生した眞症天然痘に對し石城郡地方の漁夫は最近同方面海岸に鯉魚に出て居るので平其他濱通り各警察署では出漁船に對し警戒する事になつた

残りは廿四日 大掃除を執行

平町の春季衛生掃除は十八日一齊に執行される筈であつたが天候不順な爲め各町毎に二三十名の未執行者を

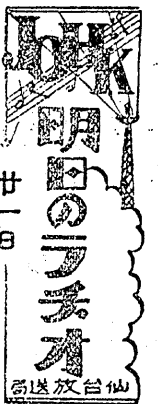
勿來町に破藏犯 家人に騒がれて 衣類を盗み逃走

十九日午前九時頃石城郡勿來町大字宮澤宇古田農小野忠太方の裏手土藏を破つて忍入物色中家人に騒がれ衣類二點價格拾圓餘を盗み行衛を晦した怪漢あり目下植田署で犯人嚴探中である

沖合で重傷

漁夫の作業中

石城郡四ツ倉町漁業鈴木幸平所有四十八社丸の乗組員漁夫安藤辰三(三三)は十八日午後一時頃同海岸沖で作業



報豫氣天
今晩は南西の風
曇り明日は北東
の風曇り時々晴

今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間) お話「子供の少将」庄野貞一
- 後六、三〇 英語講座「初等科」(十六)岡倉由三郎(官廳ニュースを含む)河
- 後七、〇〇 全國ニュース(官廳ニュースを含む)河
- 北新報社 ニュース 氣象通報 告知事項 番組預告
- 後七、二五 講演「大楠公と九州」三松莊一
- 八、〇〇 獨唱 トーデー
- 八、〇〇 獨唱 トーデー
- 後八、四〇 吹奏樂「ドイツ軍艦」エムデン號乗組軍

明日の部

- 後九、〇五 映畫物語「吉原百人斬」三田春潮
- 後九、四〇 時報 全國ニュース 氣象通報 番組預告 告知事項
- 前六、三〇 ラヂヲ体操
- 前九、〇〇 氣象通報
- 前九、一〇 料理献立
- 鳥飯 二鹽鮭のたるま焼
- 辰木ナカ發表 日用品値
- 段 肉類及加工品
- 前二、〇〇、三〇 家庭講座「秋茄子を嫁に食はすな」安部季雄
- 正午 時報
- 後〇、〇五 俗曲 吹き寄

激浪の被害

土俵を流され 十日間の休業

石城郡四ツ倉町坂本嘉平經營の同町海岸大謀網の一部土俵五千俵が十六、七兩日

初夏のサロン

樽詰生ビールを召せ
コップ一杯 十五錢

冷めたいアイスクリム
も御座ひます

田町サロ
電話三五二番

衣類の借逃

怒つて告訴

石城郡三坂村差穂根本善五郎(三三)は去る二月十日小川村字下小川佐藤さだ方に至り一週間程貸して呉れと現金七圓並びに衣類十三點價格四十六圓を借り受けその儘逃走行方をくらましたのでさだは十九日同人を相手取り詐欺の告訴を提起した

酌婦ドロ

情夫と共謀 前借を踏む

平町南町飲食店笹川トメ方抱酌婦馬騾馬騾馬明治村大字南下生れ田子さん(三三)は去る十二日前借金百卅一圓を受取り酌婦に住込んだ

四十名採用 小田炭礦で

常磐の炭界は夏枯れ期に入つたので各大小炭礦は既報の如くぼつ／＼臨時採炭夫を整理しつつあるがその反面に石城郡赤井村小田炭礦筒井坑では年々四十萬トンのお得意販路先があり現在

の激浪のため流失したが約三萬圓の損失である、たゞちに新土俵で改修工事に着手したがこれがために約十日間漁業を休止せねばならぬので漁夫にとつても非常な打撃である

